

# 国語科学習指導案

日 時： 平成28年11月 2日（水） 5校時  
クラス： 2年B組（男17名 女子15名 計32名）  
授業者： 教諭 及川 圭司

## 1 単 元 伝統文化を楽しむ 枕草子・徒然草

### 2 単元について

#### (1) 生徒について

(略)

#### (2) 教材について

本単元は、学習指導要領 読むこと 内容(1)エ「文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと」、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア伝統的な文化に関する事項(イ)「古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。」を参考に単元を構成し、主教材として、随筆『枕草子』『徒然草』を扱うものとする。

本単元「伝統文化を楽しむ 枕草子・徒然草」は、文章に書かれた筆者のものの見方を感じ取ることが主眼にしている。

『枕草子』は、平安時代中期、一条天皇の中宮定子に仕えた女房 清少納言が、宮廷生活で見聞きした「自然」「人事」などについて、自由に思うまま主観的に書き綴ったもので、全体を約三百段で構成している。清少納言は中宮定子のサロンの中心人物であり、その鋭い観察力、豊かな表現力をもって、各章段をいきいきと描いている。『徒然草』は、鎌倉時代後期、兼好法師によって書かれたものである。全体を二百四十四段で構成している。『徒然草』は「隠者の文学」とも言われている。世を捨て隠遁者として生活する兼好法師が、世の中のこと、様々な人々の言動、自然の移り変わりなどを、鋭い視点で捉えつつ、自由な精神を働かせた感想や意見が綴られている。

どちらも多くの人々に語り継がれた、優れた随筆で、観察力の鋭さやものの捉え方などでは共通する点が見られる。一方、生きた時代、性別、身分の違いなどから、対象が同じでも、考え方や見方にかなりの差を見出すこともできる。これを生徒たちの生活や考え方を比べ合わせてみると、全くの異文化でなく、現代とあまり変わらない感覚で読める。特に、筆者たちの心情面では共感をもって読めたり、自分の考えとは違うと感じながら読み比べたりすることができる。

清少納言・兼好法師、二人のものの見方や考え方を感じ取るという学習は、多感な時を迎えた生徒にとって、共感をもって受け入れられるものとする。

#### (3) 単元の指導にあたって

本単元は、学習指導要領 読むこと 内容(1)エ「文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと」を目標とし、指導していく。

指導にあたっては、下記の事柄の充実を図る。

- ① 古典教材であることを鑑み、音読を繰り返し行い、表現の特徴を押さえさせながら読ませる。
- ② 筆者のものの見方や考え方の特徴について、文章中の表現を根拠にして自分の考えをまとめさせる。その際、現代語訳文をもとに考えさせる。

このような指導をしながら、筆者の思いなどを的確に読みとらせたい。

## 3 単元の指導目標及び評価基準

### (1) 単元の目標

- ①昔の随筆に親しみ、筆者たちの自然や人間に対する自然について考えることができる。
- ②現代語訳文を参考にしながら言葉の意味を正確にとらえて読み、作品に表れているものの見方・考え方について、自分の考えをもつことができる。
- ③古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いなどを想像することができる。

(2) 単元の評価規準

ア：関心・意欲・態度	エ：読むこと	オ：伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
① 昔の随筆に親しみ、筆者たちの自然や人間に対する自然について考えようとしている。	① 現代語訳文を参考にしながら言葉の意味を正確にとらえて読み、作品に表れているもの見方・考え方について、自分の考えをもつことができる。	① 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いなどを想像することができる。

4 指導と評価の計画（6時間扱い）

次	時間	○ねらい ・学習活動	単元の評価規準	評価方法
一	1 本時	○『枕草子』『徒然草』の現代語訳文から、それぞれの筆者の人物像を考える。 ・それぞれの作品の作者名を明かさずに、現代語訳文の筆者の人柄やものの考え方などを捉えさせる。	アの① エの①	活動の観察 学習プリント
二	2	○『枕草子』『徒然草』の冒頭文を読み、それぞれの内容を押さえつつ、筆者のものの捉え方等を読み取る。 ・『枕草子』『徒然草』の冒頭文を音読し、現代語訳文によりそれぞれの内容を押さえる。そこから筆者のものの捉え方の特徴などを読み取る。	アの① エの① オの①	活動の観察 学習プリント
	3 ・ 4	○『枕草子』の概要を押さえ、第125段の文章から清少納言の季節感やものの捉えかたを理解する。 ・125段「九月ばかり…」を音読し、現代語訳文により内容を押さえる。そこから、清少納言の季節感やものの捉えかたなどを読み取る。	アの① エの① オの①	活動の観察 学習プリント
	5 ・ 6	○『徒然草』の概要を押さえ、第52段の文章から兼好法師の人間観を捉える。 ・52段「仁和寺にある法師」を音読し、口語訳文により内容を押さえる。「法師」の失敗した原因を考えさせる中から、筆者の人間観を捉えさせる。	アの① エの① オの①	活動の観察 学習プリント

5 本時の指導

(1) 本時の目標

『枕草子』『徒然草』を読み比べ、それぞれの文章に表れた筆者の人物像を考えることができる。

(2) 本時の評価基準

評価の観点	「概ね満足である」と判断される状況 (B)	支援を要する生徒への具体的な手立て
国語への関心・意欲・態度	現代語訳文から、二人の人物像について捉えようとしている。	自分の考えと似ている点、違う点を探すようにする。
読むこと	現代語訳文を読み、二人の人物像（性格・もの見方）を考えることができる。	各文章を読んで、自分の考えと同じところ、違うところを挙げさせ、そこから人柄などをあげさせる。

(3) 校内研究との関連

**研究主題：主体的に学ぶ生徒の育成**

～「学び合い、伝え合う」学習活動を中心に～

①育てたい生徒像

- ・「伝え合い、学び合う」学習活動を通じて、学習課題の解決に迫ることができる生徒
- ・文章を読んだり話を聞いたりしたことを理解して自分の考えを広げることができる生徒

②研究主題に迫るための授業づくりについて

**ア 学習の起点となる学習課題の吟味をし、まとめとの整合性を図る。**  
**(本時)** まとめとの整合性を意識するとともに、学習内容が明確化させるようなものとする。

**イ 「学び合い、伝え合う」学習活動を指導過程に効果的に位置づける。**  
**(本時)** 現代語訳文から人物像を考えるという課題解決のため、グループに学び合い活動を取り入れる。

**ウ 学習の終着点と新たな学習への意欲となる、まとめと振り返りを行う。**  
**(本時)** 本時で扱った現代語訳文(『枕草子』『徒然草』各章段の文)を読み直し、自分にとって共感したものを理由とともに挙げさせ、本時を振り返らせる。

③本時の指導の構想

本時は、本単元の第1時であり、古典教材の導入段階でもある。古典教材の指導では、音読を多用するなど、教材文に対して抵抗感を減らすことが大切であると考え。そこで本時では、同テーマについて書かれた、両作品の現代語訳文を読ませる。その際、筆者の名前を伏せ、Aさん・Bさんというエッセイストとして紹介する。生徒は書かれている内容を自分の意見と比べ、筆者の人物像(性別、年齢、どのような性格・考え方の人物か)を想像しながら読み、それらをまとめる。現代にも通じる題材について、現代語で書かれたものを、歴史上の人物であることを伏せることにより、古典の文章を抵抗感なく読み取ることができるものとする。

なお、Aさん・Bさんの人物像を探るという課題に取り組む際、学び合い活動を取り入れる。一人で考えさせる所から、小グループに分かれて交流を行わせていく。その際、根拠を明らかにしてとらえさせ、学級に発表させていく。そこから、思考力・判断力が養われるものとする。

また終末段階に、清少納言か兼好法師の考えの中で、共感したものを、理由とともに選ばせる活動を、本時の「振り返り」として取り組ませる。

(4) 展開

過程	学習活動・学習内容・《形態》	指導上の留意点
導入 5分	1 随筆(エッセイ)についての振り返り 1学期に読んだ『メッセージをどう聞くか』(加賀美幸子著)『字のない葉書』(向田邦子著)の内容を想起させ、筆者の体験をもとにした、さまざまな所感が綴られていることを確認する。	・テンポよく  ・学習プリント配布
	2 本時の課題提示  <b>AさんとBさんとは何者か? 人物像を探れ!</b>  ・Aさん、Bさん、それぞれの文を読み、二人の人物像を考えていくことを告げる。	・「人物像」とは何かについて、簡単に観点を触れる。
展開 40分	3 Aさん、Bさんの所感を述べた文を読む。 ・教師による範読。  4 所感を述べた文から読み取れる人物像を考える。 ① 個人の考えをまとめる。 ・それぞれの文から、どのような人柄かなどの、感じたことを箇条書きでよいので挙げる。(想像図を書いてもよい)  ②グループ内の学び合いにより、AさんBさんの人物像について交流する。 ・グループの学び合いを通して、それぞれの人物像を挙げる。必ず、その根拠を示すようにする。	・それぞれの人物の性格や考え方がわかるところに線を引きながら読むよう指示する。  ・挙げた人物像の根拠も明らかにするよう指示する。  ・進行役は、教師側で予め決めておく。

	<p>5 グループで考えた、両者の人物像を全体に発表する。</p> <p>6 Aさん、Bさんの考え・所感の中で、一番共感した項目は何かを選択させる。</p> <p>7 Aさん、Bさんについて、人物名等について聞く。          ・Aは、『枕草子』の作者「清少納言」。平安時代中期（今から1000年前）に活躍した人物。          ・Bは、『徒然草』の作者「兼好法師」。鎌倉時代後期（今から700年前）に活躍した人物。          ・時を隔てても、その考えが現代人と通じるものが多いことを理解する。</p>	<p>・発表者以外は、メモを必ずさせるようにする。</p> <p>・共感した項目に挙手させる。</p> <p>・このことを生徒の発言から導くようにする。</p>
<p>終末 5分</p>	<p>8 まとめ &lt;本時の振り返り&gt;          ・「清少納言」「兼好法師」の考え・所感の中で、一番共感した項目を、理由とともに挙げ、プリントに記入する。</p> <p>9 次の予告          ・『枕草子』『徒然草』の冒頭文を読み、内容を捉えることを告げる。</p>	<p>・学習プリントへの記入及び回収の指示を行う。</p>

板書計画

<p>振り返り</p> <p>清少納言・兼好法師の考えの中で、一番共感した項目を理由とともに書く。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>(各班で発表する際に使用する プリント6枚を掲示)</p> </div>	<p>随筆（エッセイ）：筆者の感想がつけられた作品</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題 AさんとBさんとは何者か？人物像を探れ！</p> </div> <p>人物像：性別 年齢 職業 性格（人柄）          価値観 など</p>
<p>Aとは 清少納言（女性） 平安時代中期          『枕草子』の作者          （今から千年前）</p> <p>Bとは 兼好法師 鎌倉時代後期          『徒然草』の作者          （今から七百年前）</p>		